

ヒラメ放流技術開発調査

上原子次男・早川 豊・松本昌也・十三邦昭
黄金崎栄一・藤田修央

発表誌名

昭和63年度放流技術開発事業報告書（日本海ブロックヒラメ班）平成元年3月、P66～76

抄 録

- (1) 浮遊期仔魚を4回の調査で計15尾採集した。採捕個体は全て前変態期のものであった。
- (2) 天然着底稚魚を7回の調査で計2尾採集した。着底尾数は前年同様 $1 \times 10^{-3} / m^2$ と推定され、60年以降低い水準で推移している。
- (3) 本年のアミ類分布量は、56年以降最低の水準であった。この要因としては、水温の低下が考えられる。
- (4) 人工種苗の移動距離については、時間の経過と共に大きくなる傾向はみられず、99%の個体は40km以内で再捕されている。
- (5) 鰺ヶ沢放流群と十三湖放流群の成長をみると、12ヶ月後の平均全長は、それぞれ22.0cm、26.9cmとなっている。
- (6) 鰺ヶ沢市場での定置等（底曳を除く）による漁獲量は29トンで、このうち10.7%が体色異常魚であった。タイプ別にみると、複合が52%と最も多く次いで尾鰭、鰓蓋部周辺、胸鰭基部の順となっている。
- (7) 調査海域の漁獲量は、前年の89トンを下回り70トンであった。